

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000375		
法人名	医療法人 名翔会		
事業所名	グループホーム 和合の家		
所在地	愛知県愛知郡東郷町大字春木字白土1-1884		
自己評価作成日	平成30年12月4日	評価結果市町村受理日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺は田畑など自然に囲まれており、居室内からは、鳥の鳴き声や朝日が拝め静かな環境で過ごすことができます。また、老健やクリニックも併設しておりレクリエーションに参加したり、緊急時の応援体制があり安心して生活ができ、「和き合いあい暮らせる家」を理念のもと、その人らしさを大切に第二の我が家になれるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2375000375-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念でもある利用者職員が「和き合いあい暮らせる家」を目指しながら、ホーム内はアットホームな雰囲気をつくっている。職員体制についても、常勤職員中心の支援体制をつくっていることで、少人数の職員による利用者への支援が行われていることで、利用者の安心感にもつながっている。少人数の職員体制で、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者一人ひとりに合わせた日常生活の支援に取り組んでいる。日常生活の中の食事作りや外出支援についても、利用者の意向や希望等を確認しながら支援が行われており、利用者により毎日の生活を楽しんでもらう取り組みが行われている。利用者が毎日過ごしている居室については、トイレが設置された広い空間が確保されていることで、利用者のベッドや家具等の位置を工夫しながら、快適に過ごしてもらう取り組みが行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年12月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「和き合いあい暮らせる家」を理念とし、入居者、職員共に支え合いその人らしさを大切に第二の我が家になれるよう取り組んでいる。玄関、リビングに理念を掲示し職員が意識して実践できるよう努めている。	ホーム名から考えた、利用者が「和き合いあい」と過ごすことができるような支援を目指しており、ホーム内にも理念の掲示が行われている。家庭的な雰囲気づくりを行いながら、職員間での理念の確認が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日頃から散歩や買物へ出かけ近所の方と挨拶をかわしたり、毎年、町主催のお祭りや近所の盆踊りにも参加し交流している。	地域の方との交流については、関連事業所を通じて行われているが、ホームからも地域で行われている盆踊り等の行事に参加する機会が得られている。また、保育園との交流や中学生の職場体験の受け入れも行われており、地域貢献にもつなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年地域学生の職場体験を受け入れたり、町内の行事に参加することにより認知症の方の理解につながるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に一回開催している。行事を兼ねてご入居者と関わりを持ち、普段の表情を見ていただいたり、事業報告を行い意見交換を行っている。	会議の際には、毎回テーマを考えながら開催していることで、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議には地域の方やボランティアの方の参加も得られている。	会議に家族の参加が得られていないことが多い状況でもある。ホームから家族への働きかけを行いながら、家族の参加につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎月発行の和合の家だよりを役場、地域包括支援センターに持参し、待機者などの状況をその都度報告し相談している。また、介護相談員の訪問も受け入れている。	町の担当部署とは、運営推進会議を通じた情報交換が行われており、ホーム運営上の不明点等の対応につなげている。地域包括支援センター職員や毎月の介護相談員を通じた情報交換の取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員で身体拘束をしないよう取り組んでいる。日中などできるだけ施錠しないようにし、入居者の方が行きたいところへ行けるようにしている。	ホーム内は見守りが困難な構造であり、利用者もエレベーターも動かすことができるが、ホーム内に施錠を行わないように身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。また、関連事業所と連携した委員会の開催や職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や併設老健での勉強会を通して学ぶ機会をつくり、伝達講習を実施して全職員が虐待を見逃さないよう、お互いに注意しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が権利擁護の研修に参加し、ホーム内で伝達講習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前にご本人、ご家族に施設を見学していただき不安や疑問がないか尋ね話し合い納得のうえ契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の方やご家族からの要望があれば申し送りやカンファレンスで職員につたえ実行できるものはすぐに取り組みようとしている。	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会につなげている。家族からの要望等については、内容に合わせてホーム管理者の他にも運営法人の職員による対応も行われている。また、毎月のホーム便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が日頃気づいた点やスタッフからの提案を受けて、スタッフ全員から意見を聞くなどし、必要があれば法人代表者に相談しよりよいケアを目指した取り組みに心がけている。	1ユニットのホームである利点を活かしながら、管理者がホームに勤務していることと合わせて、職員間での日常的な情報交換の機会をつくり、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による随時の職員面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護職員のやりがいにつながるよう、介護職員処遇改善事業の申請をしており法人全体でバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりのレベルに合わせた研修を計画しており、研修後はホーム内で伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県GH連絡協議会に加入しており、研修で他施設との情報交換の機会を得ており、参考となることは検討して取り入れている。また、東郷町が実施している現任研修にも参加し、町内の他事業所職員とも交流する機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	できるだけ入居前にご本人とお会いし世間話などをしながら関係を作り困っていること不安なことを少しでも解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に困っていること、心配なことを聞きとり話し合い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学、相談時にご本人、ご家族からの情報を把握しできる限り柔軟な対応をし必要なサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	管理者が日頃気づいた点やスタッフからの提案を受けて、スタッフ全員から意見を聞くなどし、必要があれば法人代表者に相談しよりよいケアを目指した取り組みに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族訪問時、日頃の様子を報告し気になることや気づいたことを報告、相談し協力していただき共に支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの馴染みの喫茶店へ友人と行かれる方や、ご家族の方にもできるだけ協力いただき昔からの主治医に受診してもらえよう協力してもらい、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問して利用者と交流している方がいる。ホームでも必要な支援を行いながら、馴染みの関係継続にもつなげている。また、家族との外出の機会がつくられてあり、自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士が食事やお茶を一緒に取れるようさりげなく配慮している。トラブルがあれば職員が間に入り、生活の中で得意なことや出来ることをお互いに認め合い支えあって生活していることに気づけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了された方のところへ顔を見に行ったり、ご本人、ご家族には、退去後も気軽にグループホームに訪問、相談していただくよう声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的なにげない会話や普段の様子などからどう暮らしていきたいか把握に努め困難な場合には本人の立場になり職員間で話し合っている。	日常的に職員間での情報交換を行いながら、利用者に関する職員の気付き等を日常の支援に反映する取り組みが行われている。また、カンファレンスについても随時の実施が行われており、利用者の意向等の把握と支援内容の確認が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族に、これまでの生活、暮らし方を聞き今までの生活からできる限り違和感ないように入居後も本人と確認しながら安心して生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活リズムを把握しており、毎日の体調、心身状態の変化などがあればその都度職員間で話し合いカルテに記録し情報の共有をはかっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人には普段の何気ない会話から要望をくみ取り、ご家族からは日常の様子をお話し意見や要望を伺っている。職員間では変化があればその都度話し合い介護計画に反映している。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態等の変化に合わせた見直しも行われている。日常的に職員間での情報交換を行いながら、支援内容のチェックや見直しにつなげる取り組みが行われている。	現状、定期的なモニタリングの取り組みが充分に行われていないように見受けられるため、モニタリングの実施に関する職員間での検討にも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の暮らしぶりや言動、行動を記録し情報を共有し、計画の実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	面会時ご家族にご本人と一緒に食事がとれるようお誘いしたり、急な通院など職員が付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアのご協力によりお菓子作りを一緒にされたり外出時には付き添っていただいている。また、お祭りなど地域の行事にできるだけ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望を大切にできるだけ今までのかかりつけ医への受診をおねがいでいる。受診時にはご家族へ普段の様子を報告している。	運営法人の関連事業所でもある、ホーム建物に併設している医療機関への受診支援の他にも、協力医療機関による訪問診療が行われている。また、関連の老健の看護職員による医療面に関する支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	クリニックと老健が併設しており、看護師が配置されているため気軽に相談できる関係が築かれている。昼夜急変時、ケガ等の応急処置など支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、ホーム内での入居者の方の支援に関する情報を提供し、できるだけ職員がお見舞いに行き病院関係者と情報交換を行い早期退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時管理者が終末期や延命治療の希望等を確認し、書面で記録しているため全スタッフが把握している。その時が来たと思われる場合は、管理者がご家族に希望を再確認し、出来ること出来ないことを十分説明し方針を理解したうえでケアに取り組むことになっている。	利用者のホームでの看取り支援には対応していないことを家族にも説明しており、利用者の身体状態等に合わせた話し合いが行われている。現状は、医療機関への入院の方が多く、利用者の段階に合わせた移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルがあり、いつでも見れるよう掲示してある。また、消防署で実施している普通救命講習を全職員参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回昼夜を想定した避難訓練を、老健職員にも協力してもらい入居者の方の避難誘導を行っている。また、消防署員からも誘導方法や講評を受けている。	年2回の避難訓練の際には、ホーム単独で行われているが、夜間等の際には、関連の老健と連携した対応も行われている。地域の方も参加した訓練の実施が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームが地域から離れた場所にあるが、関連の老健が地域の避難所にもなっている。ホームでも可能な取り組みの継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の誇りを尊重し、排泄や入浴時などさりげない声かけをおこない配慮し、カルテなどの個人情報も鍵がかかるところで保管し管理している。	ホームで掲げている基本方針には、利用者を尊重した対応についても記載されており、職員による日常の支援の基本にもつながっている。また、関連の老健とも連携した職員の接遇に関する研修の取り組みを行い、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の表情やなにげない会話の中で思いや希望をくみ取り自己決定できる機会を多く持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝時間、食事や入浴など時間を決めず一人ひとりのリズムに合わせて生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時や誕生日など化粧やマニキュアなどのおしゃれを楽しめ理美容院ではでは希望にあった髪型ができるよう連携をとり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりできることを把握し、調理や盛りつけ配膳片付けまで協力して行い、職員も同じテーブルで食事をとり雰囲気づくりを大切にしている。	職員でメニューを考えており、利用者の好みや嗜好にも配慮した取り組みも行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。また、季節に合わせた食事作りや食事の際には職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれに合った食事、水分の形態を提供し確保できるようにしている。体操後や散歩入浴後などおやつ以外の時間以外でも水分が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後全員に口腔ケアの声かけ見守り介助を行い、歯ブラシなどもそれぞれに合ったものを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しておりさりげなく自然なかたちで声をかけ誘導を行っている。	利用者全員の排泄記録を残しながら、日常的に職員間での情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。居室内にトイレが設置してあり、職員間で利用者のベッドの位置等の検討も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝ラジオ体操を行い天気のよい日は散歩に出かけ運動している。食事は食物繊維が摂れるよう野菜を多めにし水分は声をかけこまめにとってもらい便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	できるだけ時間帯を決めず毎日入浴できるようにしている。入浴を楽しめるよう入浴剤や季節を感じれるよう菖蒲湯などの提供を行っている。	ホームでは、毎日の入浴の準備が行われており、利用者の希望や状況等にも合わせながら、週2回以上の入浴が行われている。利用者の中には毎日のように入浴している方もいる。また、季節に合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中ゆっくり過ごせるようソファーや横になれる量のスペースがあり好きな場所で過ごされている。体調など状況を見て自室などへの声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報で内容を把握し、内服時は一人ひとりの能力に応じ、職員が見守り、必ず内服確認している。症状の変化があれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合った役割を職員が把握し力を発揮してもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	散歩や敷地内の畑の手入れ収穫等希望があれば戸外へ出かける機会を作っている。月に一度は、車で外出し、お花見や紅葉狩りや外食等ご家族やボランティアの方々にも協力を依頼して出かけている。	日常的にホームを出て散歩を楽しむ機会がつけられている。関連事業所で行事が行われる際にはホームからも参加する機会をつくっている。また、年間を通じた、花見や公園等への外出行事の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談して、ご本人が管理できる範囲で、財布を持って管理していただいている方もある。ほとんどの方が、事業所でお小遣いを預かり、病院の支払い等ご本人で出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望に応じて併設の老健に電話をかけに行ったり、携帯電話を持たれてる方もみえ、着信を確認し折り返しかけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには、利用者が描いた絵や懐かしい写真から最近の写真までいろいろ飾り、ソファや椅子を多く配置してくつろげる空間を作っている。季節の行事を大切に雛人形、クリスマスツリー、正月飾り等飾ることにより家庭的な雰囲気を作っている。	ホーム内は広めの空間が確保されていることで、利用者が好みの場所で過ごすことができる配慮が行われている。リビング内に畳コーナーがあり、利用者の寛ぎの場所にもなっている。また、季節に合わせた飾り付け等の取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	離れた静かなところに独りになれるようソファを配置しくつろげるようにし、気のあった方はお互いの居室でくつろがれている方もみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、ご本人ご家族と相談してできるだけ馴染みのある使い慣れたものを持ってきていただき居心地よく過ごせるようにしている。	居室については、利用者のプライバシーにも配慮されている広い空間が確保されている。また、居室には利用者や家族の意向にも合わせながら、使い慣れた家具や馴染みの品々の持ち込みが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの力を職員が把握しており出来ること、分かることは見守りさりげなく介助を行い自立した生活を送れるようにしている。		